

ISO/TC 195 ワルシャワ国際会議報告

標準部会

1. はじめに

毎年5月に開催される ISO/TC 195 (建設用機械及び装置) 及びその WG (作業グループ) の国際会議が平成 17 年 5 月 31 日～6 月 3 日, ワルシャワ (ポーランド) の中心街にあるホテルメルキュウルの会議室で下記の日程で開かれ, P メンバーである日本からは, 「コンクリート機械等分野の国際規格共同開発調査研究」事業 (経済産業省施策) の一貫として, 表一に示す 5 名の関係者が日本代表として出席した。

5 月 31 日～6 月 1 日 ISO/TC 195/WG 4 会議 (コンクリート機械/日本がコンビーナ)

6 月 2 日～6 月 3 日 ISO/TC 195 本会議並びに WG 5,



写真一1 国際会議場となったホテルメルキュウル

表一1 日本出席者

瀬田幸敏	ISO/TC 195 日本主席代表
大村高慶	ISO/TC 195/WG 4 日本主席代表
養安豊彦	ISO/TC 195/WG 8 コンビーナ
川合雄二	ISO/TC 195/WG 4 コンビーナ
阿部 裕	日本建設機械化協会 ISO/TC 195 事務局, ISO/TC 195/WG 8 幹事

今回の日本参画の主題は, 第 1 に日本より提案中の 2 件の「新業務項目提案」(コンクリートポンプ等の安全規格及び破碎機の安全規格) の概要, 及びその規格化の必要性について事前承認を得ること, 第 2 に 3 年越しで日本より提案中の日本がコンビーナを務める WG 4 (コンクリート機械) の SC (分科会) への昇格に関する決議であった。

第 1 については WD (作業案) 作成のスケジュールが決まり, 第 2 については ISO/TC 195/SC 1 (コンクリート機械) の新設が全会一致で承認され, 日本が幹事国となってその運営を所掌することが議決された。

2. 会議概要

(1) ISO/TC 195/WG 4 (コンクリート機械関係)
会議

- ・日 時: 5 月 31 日～6 月 1 日
- ・コンビーナ: 川合雄二 (日本)
- ・出席者: ポーランド (4), ドイツ (1), ルーマニア (2), 米国 (3), 中国 (2), 韓国 (2), 日本 (3)/大村, 阿部, 川合

昨年度中に発行された 2 件 (ISO 18650-1 (コンクリートミキサ-1) 及び ISO 18652 (外部振動機)) について, 幹事国から報告の後, 推進中の 5 件の規格及び 1 件の新業務項目提案 (以下, NWIP) について, 報告・討議・検討が行われ, 下記の合意を得た。

① ISO/DIS 18650-2 (コンクリートミキサ-2)

ポーランドより規格の検証テスト結果の報告があり, 2005 年 8 月 1 日までに更に重量式ミキサに関するテストを行い, その結果を含めて FDIS を作成する (ポーランド)。

② ISO/DIS 18651.2 (内部振動機)

2005 年 8 月 1 日までに, 日本が作成した Annex C (Compaction diameter の測定方法) を追加した DIS の第 3 版を作成する (ポーランド)。

③ ISO/DIS 21573-1 (コンクリートポンプ-1)

2005 年 8 月 1 日までに, 4 項の “Classification” を, 現在の文章形式から米国提案の表形式への変更他を織込んだ FDIS を作成する (日本)。

④ ISO/DIS 21592.2 (コンクリート吹付け機)

各国からのコメントをレビューし、2005年10月1日までに、その結果を反映させた FDIS を作成する（日本）。

⑤ ISO/CD 21573-2（コンクリートポンプ-2）

各国からのコメントをレビューし、2005年10月1日までに、その結果を反映させた DIS を作成する（日本）。

⑥ NWIP（コンクリートポンプ等—安全要求事項）

日本より提案中の本件について大村氏より説明。米国版安全規格を7月1日までに入手、CEN規格（EN 12001）も含めて内容を検討し、12月1日までに WD を作成する（日本、ドイツ、米国共同）。

⑦ WG 4 の SC 化

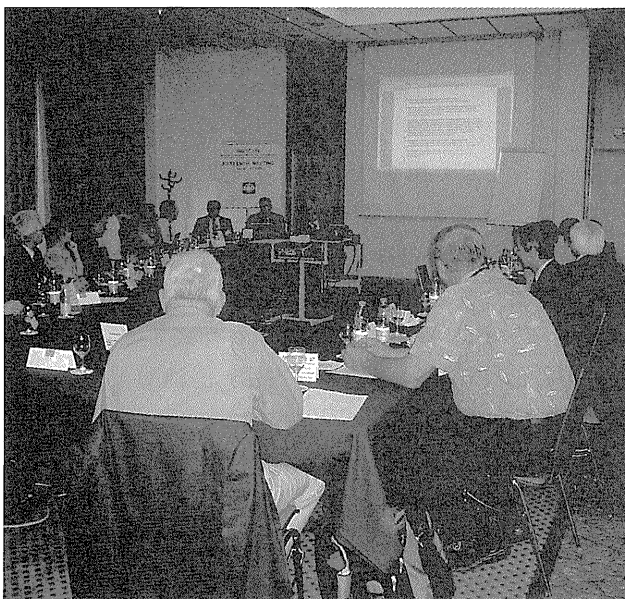
コンビーナより、TC 195 Plenary meeting に提案される本件についての事前説明を行った。

(2) ISO/TC 195 本会議

- ・日 時：6月2日～6月3日
- ・議 長：Dan. Moss（Budny）
- ・幹 事：Mr. Rozbiewski
- ・出席者：ポーランド（7）、ドイツ（4）、ルーマニア（2）、スウェーデン（2）、フィンランド（1）、イタリア（1）、米国（4）、中国（2）、韓国（2）、日本（5）/瀬田、大村、養安、阿部、川合

TC 195 幹事国ポーランドの議長候補 Budny 氏の挨拶の後、本会議の臨時の議長に Moss 氏（米国 AEM）が指名され、議事に沿った報告・討議・検討が行われ、下記の決議がなされた。

- ① 各 WG（4/18～20 にドイツで開催された WG 6（Hand-held machinery and equipment）も含め）の議事録を承認した。



写真—2 会議は友好的な雰囲気の中で進行した

② WG 2（Terminology）及び WG 3（Pile driving equipment）は、テーマ完了を確認し、解散する。

③ WG 4 より6月18日締切りで提案中の NWIP（コンクリートポンプ等—安全要求事項）について確認した。

④ WG 5 より7月1日締切りで提案中の NWIP（ロードスウィーパー用語と仕様項目）について確認した。

⑤ WG 8 より6月18日締切りで提案中の NWIP（破砕機—安全要求事項）は上述の開発時期懸念のため、WD の作成期限を6カ月延長し、9カ月とすることで検討を進めることとなった。

⑥ WG 4 の SC 化について、コンビーナより詳細案の説明プレゼンテーションがあった。長年 TC 127/SC 3 議長を務められた瀬田氏よりの支援スピーチもあり、全出席国の合意が得られた。更にこの決定に基づき ISO 中央事務局に提出される申請書の案文が作成され、6月10日までに幹事国より正式文書として提出されることとなった。WG 5 の SC 化については、SC 1（WG 4）の状況もにらんで提案時期等を判断する。

⑦ 次回（第16回）の会議は、2006年5月11～12日にワルシャワにて開催予定とした。第17回会議は、2007年5月10～11日と仮設定（場所は Krakow の予定）した。

最後に、今回の会議開催を主催した Budny 氏及びポーランドの支援メンバーの努力に謝意を表した。また Budny 氏は Moss 氏の本会議議長の快諾及び友好的な議事進行が執り行われたことに感謝し、閉会した。

(3) その他の WG への参画

- ・日 時：6月3日

WG 5、WG 7、WG 8 が同時開催され以下の事項が審議された。

(a) ISO/TC 195/WG 5（道路機械関係）会議

- ・コンビーナ：Mr. G. Piller（ドイツ）
- ・出席者：ドイツ（1）、ポーランド（3）、米国（1）、中国（2）、日本（1）/川合

① ISO/FDIS 22242（道路建設及び維持用機械の分類及び定義）に関し最終審議を行い、一部修正した。

② ISO/CD 15878 Asphalt pavers—Terminology and commercial specifications について、日本及び米国からのコメントを主に審議し、その結果を基に幹事国で DIS を作成することになった。

(b) ISO/TC 195/WG 7（手押し式締固め機械）会議

- ・コンビーナ：F. Wenzel（米国）

日本は、同時開催された他の会議に出席のため、日本のコメントを事前にコンビーナに提出して審議を依頼した。

ISO/CD 19433 Hand-guided, walk behind vibratory plates—Terminology and commercial specifications 及び ISO/CD 19452 Hand-guided, walk behind vibratory rammers—Terminology and commercial specifications の2件の規格（締切日：8月8日にて回付中のCD第1次案）について各国からのコメントをベースに審議した。その結果を基にコンビナーがCDの第2次案を作成することになった。なお、今回の投票は、変更が多岐にわたるため各国とも“No”とすることとした。

(c) ISO/TC 195/WG 8（粗骨材処理用機械及び装置）
会議

- ・コンビナー：養安豊彦（日本）
- ・幹事：阿部裕
- ・出席者：ポーランド（1）、スウェーデン（1）、フィンランド（1）、イタリア（1）、米国（1）、韓国（2）、日本（2）/養安、阿部

昨年11月に予定していたWG8発足後最初のミーティングが中止となり、今回がメンバー最初の顔合わせであった。コンビナーの養安氏から本WG8の趣旨説明等を行った後、下記審議を行った。

① ISO/WD 21873 Mobile crushers—Terminology and commercial specifications

日本が作成した各国コメントを織込んだCD案について審議した。各国より必要な追加情報を入手し、7月31日までにそれらを織込んだCDを作成する（日本）。

② NWIP（破碎機—安全要求事項）

日本より提案中である本件の破碎機の開発については支持されそうであるが、米国、フィンランド、イタリアよりWD作成に関わる負担に対する懸念が表明された。また、開発時期の見直しを検討すべきであるとの提案があった。

4. あとがき

今回の国際会議での圧巻は、ISO/TC 195の中に日本よ

り提案していた「コンクリート機械分野」の分科会であるSC1を新設することが満場一致で承認されたことである。日本がその幹事国となって当該機械分野の国際標準化作業を担当、推進することとなった。

本分野では、既に規格を開発済みの機械について、EUの安全規格（CEN）に対応する規格作成の要請があるばかりでなく、コンクリートプラント、トラックミキサなど国際規格化が遅れている機械類が多く残されていることから、幹事国日本としての役割は大きい。

当協会標準部では、既にISO/TC 127/SC 3（土工機械/整備）の幹事国を長年にわたり務めているので、その国際的経験を活かして早期安定稼働を目指して国内外の体制整備に取り組む所存である。

なお、今回のSC1新設に関しては、経済産業省標準課の吉川治氏、高木真人氏、日本規格協会の若井博雄理事、榎宏氏、ISO/中央事務局の担当マネージャ Alain Samne氏、当協会標準部会長の青木英勝氏ほか多くの方々より多大のご助言、激励のお言葉を戴くことができた。その御期待に沿うべく粘り強く各国を説得してきたことが、今回のSC1設立の承認に結びついたものと思料される。本報文を通じて関係各位に深く御礼申し上げる次第です。

日本側からのSC1設立の詳細案説明の後、TC 195の日本主席代表として出席された瀬田幸敏氏より、ISO/TC 127/SC 3（土工機械/整備）の議長を長年にわたり務められたご経験から、このSC新設が如何に大切であるかという説得力のあるスピーチが最後にあり、これが駄目押しとなって全会一致の承認が得られた。

なお、今回は承認されなかったが、コンクリート機械同様に機械の種類が多岐にわたるISO/TC 195/WG 5（道路建設整備用機械）についても、米国、ドイツ等関係各国との協力を得て今後、SCへの昇格を検討する予定である。

（文責：阿部 裕/川合雄二）